

知恵の樹

No. 194 2015. 7. 28

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

得るものと捨てるもの

—図書館のシステム更改に思う— 守谷 信二



私が図書館で仕事をするようになった 30 数年前は、まだ図書館にコンピュータは導入されていなかった。貸出処理も、ブラウン方式といって本に付けられたカードを抜き取って、利用券と一緒に返却時まで保管しておくという、きわめてアナログな方法だった。

予約本を掴まえるのも、毎週回覧される全館分の予約一覧(それも「青焼き」という時代)の書名を覚えておいて、その本が返却された時に掴まえるのである。だから、予約一覧をしっかり頭に入れておかないと、折角返却された予約本を取り逃して先輩職員から発破を掛けられることにもなる。本の分類も目録書きも装備もみんな自分でやるから、受け入れた本はその内容まである程度覚えていた。だから、80 年代はじめによく図書館業務のコンピュータ化が取り沙汰されはじめると、いまからは信じられないことだが、人員削減や仕事の質的变化を危惧して、コンピュータ導入の是非が大きな議論にもなった。

コンピュータの導入がなければ、今日のような膨大な蔵書管理も、貸出も予約処理も不可能である。何より全国の図書館の所蔵状況が、居ながらにして検索できるようになるなど、当時は夢にも思わなかった。それなら、コンピュータ導入を巡るあの議論は、時代の先行きを読めなかった愚かさとして、一笑に付されるべきものだったと言えるのかどうか。

近年の図書館現場はよく知らないが、IC タグを利用した自動貸出機、予約本の「セルフ」受け取り、

自動化書庫など一段と機械化が進んでいるように見える。市民向けの説明では、異口同音に利便性の向上が謳われ、新たなサービスの有効性が PR されている。

だが、果たして本当にそれが目的なのか。実は、職員削減の代替手段としての機械化であり、同時に新たなシェア拡大に鎬を削る情報産業の格好のビジネスチャンスとして推し進められているにすぎないのではないのか。

自動貸出機は、貸出カウンターでの待ち時間が短くなるとか、職員を介さずに本が借りられるから、個人情報保護の観点からも望ましい、などと PR される。だが、本当はカウンターに職員を十分に配置できないための手段で、例えばこれまでなら延滞資料のある利用者には、カウンターで職員が直接事情を確認しながら返却を促すことができたのに、自動貸出機ではそれができない。一定期間以上延滞したら自動的に貸出停止にするシステムの導入も、それと同じ軌道の上にあるように思われる。待ち時間の短縮というが、そもそも年がら年中カウンターが長蛇の列などということではなかったろう。

予約本の「セルフ」受け取りコーナーというのは、膨大な予約本を仕分けする職員の手間を省くのが目的だから、それを採用したことで「自分の予約資料を探すのが楽しいという利用者の声がある」などと説明されても、何か後ろめたさの言い繕いのように聞こえる。

わが図書館では採用していないが、自動化書庫なども近年の公共図書館で導入するところが増え

ているようだ。職員すら入り込めない書庫に、コンピュータ制御のロボットアームが行き来して、指定された本が収められたコンテナを、ベルトコンベアで出し入れするシステムである。最大のメリットは、職員がいちいち書庫に行って本を選んだり、分類順に配架したりする手間を省くことにある。必要な本はコンピュータで検索して、取り出しを指示すればよいというのがウリである。だが、実際に導入した館の職員に聞いてみると、出納が重なったときなど出て来るまでに結構な時間が掛かるので、従来は閉館時間まで受け付けていた書庫出納を、閉館前の一定時間で締め切るようにしたというのである。

もともとコンピュータ画面だけで、利用者が求める資料を特定するのは困難な場合が多い。実際に手に取って目次を確認し、時には該当ページを斜め読みして、利用者が満足しそうな本を何冊か選び出して提供するのが普通だ。まして年鑑類を時系列で調べたい時など、一冊一冊機械で取り出すのは便利なようで、実はばかばかしいことではなからうか。一旦仕舞われたら、永久に利用者の目に触れないで終わる本も、従来の書庫以上に増えるはずである。

さらに仔細なことを言えば、わが館が新しく導入したカラーバーコードは、カメラで読み込むために本の背の一定の場所に貼るよう細かく指示されている。これまでも分類ラベルを貼ってはいたが、できるだけ背の情報を隠さないような位置を選んで貼るようにして来た。いまや、そんな面倒な配慮も不要という訳である。

ひと言でいえば、便利さや経済効率のために、それ以外の価値は捨て去って顧みないのである。もっとも、こうしたシステム更改には莫大な経費が投入されているのだから、経済効率というものじっくり精査してみる必要がある。

職員が利用者と、貸出や返却の合間にカウンターでちょっとした会話を交わす。そこから何を求めて図書館に来られたのかを知り、利用者が気付かない資料をさりげなく案内したりする。そんなアナログだが人間味のある図書館像は最早失われて、

ただただ黙々と立ち働く職員と、自分の予約本を黙って貸出処理して帰っていく利用者。少し誇張が過ぎるかもしれないが、そんな殺伐とした風景が、わが図書館の日常となりつつあるのかもしれない。その原因は、むしろそこで働く職員にではなく、何か訳の分からぬこの国の構造にあるのである。

渡辺京二氏の『逝きし世の面影』(平凡社ライブラリー)という本は、幕末から明治にかけて日本を訪れた外国人の膨大な日記や記録を渉猟し、江戸という時代がどのようなものであったかを様々な位相において描出した名著である。本書によれば、ともすると江戸時代の庶民は、身分制度に縛りつけられ、暗く貧しい社会を耐え忍んで生きていた、と私たちは思い込みがちだが、外国人たちの目に映ったその姿は、実は意外に明るく、大らかで、幸福感に溢れる自足したものであったという。

渡辺氏は、江戸というひとつの個性的な文明の滅亡の上に、日本近代は打ち立てられたのであり、時代によって変容しながらも、何か連続として日本文化が持続しているように考えるのは、おめでたい錯覚にすぎないという。

社会の変容ぶりにおいて、明治維新、そして70年前の敗戦に次ぐとまで言われる近年の「IT革命」は、果たして何を滅亡させ、何を生み出そうとしているのだろう。 (会員)

町田市立図書館3月5日リニューアルオープン
利用者の利便性の向上のため、ICタグに
対応した 図書館情報システムに変わりました!

- 1. 貸出・返却手続きのセルフサービス化**
セルフ貸出機・返却機を用いて利用者自身が手続きをする
- 2. 予約資料貸出のセルフサービス化**
中央館・鶴川駅前図書館は、利用者自身でコーナーに並べてある自分の予約本の手続きをする
- 3. セキュリティの強化**
新たに、さるびあ・堺図書館にICタグ対応の入退館ゲートを設置。(既存:中央・金森・鶴川駅前)
- 4. 図書館ホームページのリニューアル**
より見やすく充実、新規インターネットサービスも開始
- 5. ソフトハードの全面更改**

図書館・新システム ～利用者の声～

侘しくて、ひと言 新しいシステムになって中央図書館の入り口を入った時、スーと胸の中が真空になった。いつも居てくれていた図書館員がいない。「無人駅だ」、と足が止まってしまった。

いつものように児童コーナーへ行く。貸出機がある。図書館員も目で見えているのに、利用者の声も聞こえるのに人を感じない。

仕事からまだ戻らない親のいない食卓で、お母さんの用意しておいてくれた夕食を1人で食べ、塾へ出かける子どもの吐息を背中に感じた。

何度図書館へ行っても、この無人のショックは消えず、並んでいる本は風景にしか見えない。

7月になって予約本を受け取りに行った。通知の葉書をカウンターに出すと図書館員がすぐ対応してくれた。私の心がほほえんだ。カウンターを出てきてくれた人は、「予約本のコーナーはこちらで・・・」と通知に書かれた数字と棚の数字の意味を説明してくれた。「あー、またまた図書館の方と話をする機会がなくなったのね」と吐息まじりの言葉を出してしまった。予約本を棚から取って借りてきたが、教えて下さったお礼を言ったかどうかおぼえがない。

これまでは、図書館員に手続きの終わった本を「どうぞ」と手渡された時“にこっ”として借りていく子どもの姿を何度も見かけた。「どうぞ」の一言で図書館員と読書という温かさを共有したことであろうに。せめて子どもたちに温かく本を手渡してもらいたい。

(かえで文庫／高橋臣子)

我が家の娘(40歳代)は、中央図書館利用者ですが、新システムについては肯定的で借りるのに以前のように並ぶことはなくなったし、一度にまとめて処理してくれるのでスピーディで良いという意見です。

私自身も、新しいやり方にかかなり慣れたので借りるにもパツパツとやれます。重ねて何冊も一度の操作ですみます。確かに並ばなくなりました。

ただ実に不便だなと思ったのは、翻訳書を探すときに作者しかパソコン上に出てこないことです。有名な本は何人もの翻訳者が訳しているのに機械上では検索不能なのです。新システムになるまえは訳者も記載されていました。

文学館でときに町田ゆかりの作家紹介するときなど、非常に不便を感じました。(会員／丸岡和代)

今年4月に中央図書館を利用した際、利用の仕方が変わったのを初めて知った。まず入り口にいた職員の方がいなくなっていて、御用の方は電話を、と

電話がおいてあったことに驚いた。本の借り方もTsutayaですら店員がバーコードを読んで貸し出しするのに、利用者年齢が高いにも関わらずセルフサービスでタッチパネルで借りる事にとても驚いた。

また予約サービスもカウンターの奥に予約本の本棚があり、無断持ち出しのないようにあるゲートを通ると1,2,3...と棚に書いてあり、自分のカードを通すと番号がでてきて○番棚の上から何段目という指示に従い自分で本を探すしくみだった。

また、図書館のホームページもわかりづらく、本の予約がしづらくなっていた。そしてパスワードがわからなくなったから、カウンターでパスワードを変えたいと言ったら、それは自分でマイページで行ってくださいとページに入れないから変えたいのにシステムを理解していない答えが返ってきた。結局紙で予約し、その場で出したが予約完了通知がハガキのままですと言われ、もしカウンターでパスワードを変更できればハガキ通知をメール通知にでき図書館側も経費を節約できたらと思う。便利にしたようで詰めが甘く、反対に残すべきところがなくなっているように感じた。また、たまたま図書館に配属されてしまった人なのかパソコンのことも図書館のことも何もわかっていないような職員もいた。

小学生の頃から利用しているため、なじみのあった図書館が味気のない場所に変わりようとしていることに悲しい気持ちになった。(20代／M・H)

本を借りたり返したりをすべて機械ですませるような時代になるとは、長生きしたものである。新しいものには大いに興味がありすぐに出かけてみる。入口近くのカウンターには返却機が2台並んでいて、「こんにちは」と声を掛け合う人が見えない。貸出機の方には、何人かの人が回りに立っていて、もたもたしている人に親切に説明をしている。

返却口に本を入れるとズーっと音がしてドン！と落ちた。「ありがとう」と小さい声で言う。貸出機もドキドキしながら前に立つ。本を乗せてカードを・・・、つい、差し込むところを探してもたもたしてしまう。何冊も本を乗せて一度に読み取り貸し出しOKなのはありがたいが、「お願いします」「ありがとうございます」と借りる楽しみや言葉のやりとりなしで借りる本は少し価値が下がる気がする。つい先日紙芝居を返却口に滑り込ませたら、横から顔が出て「紙芝居は、手渡しでお願いします」と言う。「これから気をつけてください！」と。「あ～ すいません」と思わずあやまりながら、はて？と思う。手渡しはこちらの願うところ、高い返却機はもう少し低くして、中で働く人たちが楽しく言葉のやりとりができれば・・・。(70代／C子)

「戦争は始めさせてはだめです」(むのたけじ)

今私たちは運命の岐路に立っています

安倍内閣の愛国心教育・特定秘密保護法・集団的自衛権容認は
戦前回帰への三位一体改革

戦時中の言論責任をとって朝日新聞社を辞めた武野武治氏は、「戦争は始めさせてはだめだということです。『ああこりゃひどい、こんなことになるなら』といってやめさせようにもやまないんです。やらせないために何が必要か。簡単な事です。現実の世界で何が起っているのか、アメリカが、中国が、ロシアが、その他の国々と何をやっているのかという現実を正直にお互いに知らせ合う事です」と、『日本人はなぜ戦争へと向かったのか』(NHK出版下巻)の中で述べています。

安倍内閣は昨年7月1日集団的自衛権容認を閣議決定し、今年7月15日には11本もの安保関連諸法案が無謀にも一括審議にかけられ与党(自民、公明)が2/3以上占める衆議院の安保特別委員会で採決を強行しました。翌16日には衆議院本会議場で自民党、公明党に「次世代の党」が加わり圧倒的多数で採決されてしまいました。

国会周辺では5月以来「戦争させない」「アベ政治を許さない」「9条壊すな」「戦争反対」等プラカードを手到老若男女が国会を取り囲んでいます。若い学生さんたちのSEALDs(シールズ)は私のような老年にとって希望の星です。世論調査でも国民の6割がこの法案に反対です。

私は敗戦後の1947年中国から引揚げた経験から、「戦争は悲しく辛いもの」でした。戦争の放棄を規定した現憲法のもとで戦後70年間戦争をしなかった、明治時代以来こんなに長く戦争をしなかった時代は日本にはなかったのです。わが国が引き起こした第二次世界大戦で310万人の国民と2000万人ものアジアの人々の死を無駄にしてはならない！二度と再び戦争を引き起こしてはならない、安倍政権の安保法は絶対反対です。日清戦争から太平洋戦争、敗戦に至る日本の歴史の反省の上に立つ日本国憲法の見方は歴史認識と深く結びついています。

安倍晋三氏は戦前の歴史を懐かしみ、それを取

り戻すための自主憲法制定・改憲派として今日に立っています。ですから、立憲主義を無視し、憲法違反の集団的自衛権を盛り込

んだ時代錯誤の安保法を制定し憲法改正(特に九条)へとつなぎたい、彼の本音です。

第一次安倍政権時の2007年に47年教育基本法を「改正」し愛国心を盛り込み、道徳教育を教科教化しました。2012年・第二次安倍内閣では改憲を公約しています。改憲には時間がかかるので2004年自民党幹事長のとき岡崎久彦氏との対談本『この国を守る決意』(扶桑社)に「60年安保の祖父・岸信介総理はアメリカの日本防衛義務を条約の中に書き込んで日米安保の双務性を実現しようとした。自分の時代には堂々たる双務性にしていくと誓った」「軍事同盟とは血の同盟で、アメリカの青年が血を流すのであれば、日本も血を流さなければ日米は対等になれない」と述べてます。このように集団的自衛権・安保法は戦争法です。

私たちは今、歴史の岐路に立っています。私たちの選んだ議員たちがどのような行動をしているか、しっかり見届け、これから行われる参議院の法案審議を監視し、戦争法反対の意思表示をしようではありませんか。来年7月は参議院選挙です。投票行動によって、戦争法を葬り、憲法破壊を止めさせましょう。再び愚かな戦争時代をくり返さないために。

歴史はくり返す 愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶと言われていました。少し遅いかもしれませんが私は賢者になりたいとしみじみ思います。

(会員 住田啓子)

先週、立憲フォーラム、立憲デモクラシーの集会に参加しました。雨でしたのでデモには参加しませんでした。個人の意志で参加している人が多く、若者の多さに少しほっとしました。先の総選挙では投票率が60%弱、自民党は3割弱の得票率で、6割もの議席を得、おき出しの横暴さ。

みんなに見てほしいですね。
この悔しさをバネに頑張りましょう。

(7/17 住田)



「宮沢賢治 イーハトーヴの鳥たち」展 を開きます

児童文学作家 国松俊英

7月18日から町田市民文学館で、「宮沢賢治
イーハトーヴの鳥たち」展が開かれています。



宮沢賢治の童話や詩には、多くの鳥が登場します。「よだかの星」「二十六夜」「鳥の北斗七星」「雁の童子」「林の底」など、鳥が主役になっている作品や、「セロ弾きのゴーシュ」や「十力の金剛石」「まなづるとダァリヤ」のように主役でなく

ても重要な役目で出てくる作品もあります。賢治の代表作「銀河鉄道の夜」は死後の世界を描いたものですが、もうひとつの世界にすむ星座の世界の鳥たちがいろいろ出てきます。

町田市民文学館では、鳥が登場する賢治の童話を、絵本や紙芝居の原画を展示して見てもらおうと考えました。本物そっくりのバードカービング(木彫りの鳥)、野鳥図鑑の絵もならべ、賢治文学の鳥の世界を楽しんでもらおうと思っています。

宮沢賢治は、山や森、草原などをいつも歩きまわっている人でした。登山がすきで、岩手山には40回も登っています。また、地質調査・土性調査のために、盛岡周辺や稗貫郡を何日も何日も歩きまわり、しょっちゅう野宿もやっていました。野山を歩きまわりながら、山や林でよく出会い、親しんだのが鳥でした。鳥は、人里にも林にも、草原にもいます。冬鳥、夏鳥といったように、季節が変わっても鳥はいつもいてその姿を見ることができます。姿が見えなくても、さえずりを聞くことができます。賢治は、いろんな季節に、いろんな場所で鳥に出会い、鳥のことが好きになっていったのです。

また賢治は、見知らぬ世界、自分が行けない世界への憧れをだれよりも強く持つ人でした。人間

は地上でしか生きられません、鳥はつばさを持ち、自由に大空を飛ぶことができます。高い山を越え、広い海を飛んで、どんな遠い世界へも行くことができます。そこで賢治は、地上で生きる自分の願い、憧れ、祈りなどを、つばさを持つ鳥に託そうとしたのでした。

童話「雁の童子」では、天上にすむ人が鳥、ガンの姿になって地上に下りてきます。「よだかの星」ではよだかは最後に、天に上っていきます。このように、現実世界と非現実の世界、この世とあの世、三次元と四次元、2つの世界を自由に行き来するものとして、賢治は鳥を登場させたのでした。

もうひとつ、賢治は、鳥のさえずり、鳴き声に興味を持ち、つよく魅せられていました。風の音、水の音、雨の音…自然の中の音楽に敏感だった賢治は、いろんな声でさえずる鳥の音楽に、どんなものよりもつよく惹かれたと思います。

今回の展覧会は、ちょうど夏休みを中心に開かれます。そのため、子ども向けの行事、ワークショップをたくさん用意しました。

- ・折り紙で鳥をつくる
- ・バードカービングの講座
- ・夜空の星の中に鳥を見つける会
- ・賢治のおはなしモビールづくり
- ・賢治童話・紙芝居上演会

8月後半からは、大人向けの行事もあります。

展覧会場を使つての、チェロとヴァイオリンのコンサート、賢治文学についての講演会などです。

国松も、9月5日(土)の14:00から、「イーハトーヴの鳥を読む」という話をします。

賢治の童話や詩にはたくさんの鳥が登場して、とても重要な働きをしています。賢治文学では、鳥はとても大切な要素なのです。

ぜひ、この夏は町田市民文学館にお出で下さい。そして、イーハトーヴのさわやかな風と光にふれて、リフレッシュして下さい。お待ちしております。

(本会会員)

第15期図書館協議会 第19回定例会

6月25日(木) 15時～17時

於:町田市民文学館大会議室(傍聴1名)

【館長報告】

1. 平成27年度第2回町田市議会定例会について/
図書館関連の質問なし

2. その他

・嘱託員の採用/6月24日、1次選考合格者30名と面接し、6名を採用決定

・前回定例会での質問に答えて

▷ 2009年度からの館別図書購入費(図書、雑誌、AV資料)の推移:2015年度は全館合わせても2009年度の46%に過ぎない。この間2館増えているので1館当たりの図書購入費はさらに減額。中央館でいえば2015年度は2009年度の36%。館数が増えたことにより、雑誌購入費の総額は増えたが、1館当たりは減額

▷ 忠生図書館の利用状況 2015年5月の町名別貸出人数(地域別利用者動向) 1. 忠生 1805人(22%) 2. 図師町 1656人 3. 木曾西 671人、以下根岸、山崎町、小山田桜台、常磐町(ここまででほぼ75%)。今後も継続して動向確認。

〈主な質問・意見〉

・予算について/AV資料購入費の前年比が他のものに比べて55%と著しいのでは/町田市全体の予算の中で、図書館の予算が特に減らされているのか/システム更改による維持費の増減はあったか/資料費を増額するためにはどのように動けばよいのか/町田市全体の予算は増えているのになぜ生涯学習の予算は減少しているのかなど、予算に関しては各委員とも危機感を感じていて、様々な質問が出た。

〈館長から〉この7年間で2館を新設し、さらにシステム更改をしているので、図書館費全体の予算は2014年度がピーク。しかし、各館に配分される資料費を取り出してみると2009年度から一貫して減少しており、2015年度には2009年度のほぼ半分になっている。すでに資料費以外は削減しておりこれ以上減らせるところはない状態になっている。町田市は中央図書館にしかAV資料がなく充実し

ているとは言えないので削減しないようにしていたが、継続困難のため、図書と同様に2009年度のおよそ半分という線にあわせた。

システム更改後もシステムに関する費用はほぼ同じ。以前は情報システム課が賄っていたが、今年度は図書館で負う様になった。また、バーコードとICタグ両方を装備するため、ICタグ分のコストは増加。資料費の現状については良いとは思わないので、資料費を含めた図書館費の増額を要求していく。

【協議事項】

1. 「町田市子ども読書活動推進計画推進会議」委員の推薦/砂川委員を推薦することに決定
2. 図書館評価について/図書館より:第2期の図書館評価の依頼は8月より始まる第16期の図書館協議会第1回定例会で依頼する
3. 図書館への要望書について/要望書案を委員長が提示、内容について検討。おはなし会等の情報を図書館のHPにアップすることも要望する。

★次回第20回定例会:7月23日(木)15:00～

町田市立中央図書館6階中集会室にて
傍聴自由!

第101回 全国図書館大会のお誘い

10月15日(木)・16日(金)に全国図書館大会が東京で開催され、昨年引き続き市民の部会(第22分科会)も開催されます。図書館に関心のある市民の方は是非ご参加下さい。

詳しくは日本図書館協会HPに掲載。

(申込締切9月30日、1日参加3000円)

～おすすめ～

・10月16日午後 第22分科会

「市民と図書館:図書館を支える市民の力」

基調報告:犬塚まゆみ氏(伊万里市民図書館元館長)
テーマ「市民力に支えられて」報告:石倉賢一(としよかんふれんず千葉市代表)『としよかんふれんず千葉市』の目指すもの:図書館と市民のつながりの中で、パネルディスカッション。

・10月16日午前 第14部会「図書館を語る」

基調報告:竹内 愼氏(元日本図書館協会理事)
テーマ「図書館のめざすもの」報告:嶋田学(瀬戸内市新図書館開設準備室長)、加藤容子(津山市立北陵中学校学校司書)、濱田幸子(図書館友の会全国連絡会)

2015 年度 総会・交流会 報告

於：町田市立中央図書館中集会室

町田の学校図書館を考える会

去る6月13日(土)、1時半から総会を開く。2015年度の活動は、活動計画の一つ、「すべての町田市立小中学校図書館に『専任・専門の学校司書』の配置を実現する為に、町田市教育委員会との面談・学校見学等の活動をする事」に、特に重点を置くことを確認。

引き続き 2時より交流会。

参加者 13 名(図書指導員7、司書教諭1、市議会議員2、その他3、/内会員6)

1. ブックトーク 低学年向き「こわいぞ～ おばけがいっぱい」谷釜房子(会員)。「夏と言えば？怖いと言えば？そうおばけです」という呼びかけから始まって、『うさんごろとおばけ』(瀬戸恵子/グランままシャ)、『おばけのジョージ』(ロバート・ブライト/徳間書店)、『おばけやかたのひみつ』(大島妙子/偕成社)等7冊を紹介。「他にも怖いおばけの本が見つかったら、教えてね」と締めくくった。

2. 改正学校図書館法の解説と町田市の動向・教育部長との面談の報告 / 水越規容子(会員)

2014年6月に学校図書館法の一部が改正され、学校司書を置くよう努めなければならないと定められ 2015 年度より施行が始まった。考える会では、5/22 教育部長他4名と面談をして、法改正に伴い、町田市ではどのように対応するのかを聞いた。その際、学校図書館に関する要望書と町田市の図書指導員の現状(『知恵の樹』193 号 P. 6 参照)を提出。考える会としては、「〇年後にこういう形にする」といった約束を頂きたいと申し出たが、教育委員会側は、国の直接的な指示がまだ出されていないし、予算が関わることなので、今は具体的なことは言えないとの回答だった。そこで、要望書の5番目「校長などの管理職や一般教員に対し、改正学校図書館法の意義と学校司書の役割の重要性について十分な理解を促すため、機会を設けること」は是非行ってほしいと最後をお願いした。

司書教諭の発令から15年経つが、学校図書館にあまり変化はない。先進的な実践校には必ず学校司書がいる。今回の法改正は、学校図書館の充実に学校司書が欠かせないことを国が認めた証といえる。

町田市は2002年に図書指導員を有償教育ボランティアとして全校に配置。2013年度より、ボランティアの枠を外し当初1日4時間まで2000円を3000円、年140日を175日(週5日で35週)と、少し待遇改善が見られたに留まり、未だ、公募もなく、資格も問われないので、学校によりかなりの格差が生じている。

3. 情報交換

図書指導員: 法改正のことはあまりよく知らなかったもので、今回話が聞いてよかった / 図書指導員が入らない学級の児童からの要望で、全学級の図書の時間に入っている。学級数が多いので、1日に4時間以上やらざるを得ない。⇒1か月の図書館使用時間数を調整し、事務作業ができるようにしたらどうか? / 図書委員会や選書について、図書指導員に丸投げ状態 / 司書教諭が替ったら、全く選書をやらせてもらえなくなった。⇒選書は、蔵書のことをよく知っている図書指導員が中心にやるべき / 準備室が無いので、本の装備をする場所が無くて困る。時間外に作業をすることになる。
議員より: 学校教育自体は、学校図書館の改善を考えているが、財務部を説得しないと実現できない。 / 学校司書が行政の枠に入ると、図書館の自由が脅かされるのではないかという懸念もある。
司書教諭: 司書教諭の役割が分かり、勉強になった。

学校図書館を作るのは、学校司書、学校図書館を使って何が出来るかを教員に広めるのが司書教諭の役割だと考える。既に近隣の自治体で成功している学校もある。教育の質的格差が広がらない内に、町田市の学校図書館が豊かになるよう活動していきたい。(市川)





ひろば

定例会 6/23(火) 報告

- ・ 16:30～193号刷 (伊・手・清・丸)
 - ・ 18:00～20:00 中央図書館中集
- 出席: 石井、市川、岡澤、久保、清水、鈴木真、高橋、手嶋、増山、丸岡、守谷、山口

- 会報 194号 掲載予定記事について。
- 講演会企画・・・佐々木 央さん (共同通信社) を講師に、11月に実施。2, 3希望日をあげ講師と調整 (⇒後日、11/15 (日) 15時から開催することに決定)。
- 図書館見学&図書館サポーターとの交流について・・・いくつか候補が上がるが、次回に持ち越し。
- 交友連会費納入の件・・・今年度分は大会参加の際山口さんが立て替えて支払う。会計から振り込んだ2千円は、次年度分として処理した。
- 町田市立図書館システム更改について・・・町田市の図書館の基本は、「貸す」方向だったのに、今回の改正で、住所未確認(1か月)や延滞(42日)が続くと、借りられなくなった。職員の中で十分に議論されないまま、実施されたのが残念。図書館協議会でも話題にしたい (1p参照)。
- 資料費(図書購入費)増額に向けた取り組み・・・図書館資料費が大幅に減額されている。増額獲得に向けた具体的策が話し合われる。まず、協議会を通じて経過を見て、すすめる会は動く(p6参照)。
- 夕涼み会について・・・8/27(木)、予算¥4000。
- 嘱託労の定期大会の報告 (市川)・・・第8回定期大会を6月18日に開催。前回大会予定日(2013年11月)まで三役が決まらず、2014年1月に定期大会を延期、今後の三役選出方法について時間をかけて話し合ってきた。各ブロックから一定の人数を出して選挙をする、三役持回り制度を実施することに決定。今回の定期大会で、新三役と執行委員が選出された。執行委員長は、山下亜紀さ

◇「図書館の自由に関する宣言」60周年記念講演会 / 8/8(土)13:30～16:00 / 日本図書館協会 2階研修室 / 講演:「図書館と表現の自由—法学者からみた図書館の自由宣言」講師:松井茂記氏 (憲法学者他)・対談:松井茂記氏+塩見昇氏 (大阪教育大学名誉教授、前日本図書館協会理事長/無料/直接会場へ(問:日図協企画調査部 03-3523-0815))

◇学校司書、委託でいいの?—学校図書館法 改正を受けて—講師:水越規容子さん(学校図書館を考える全国連絡会代表) / 8/22(土)13:30～16:30 / 男女共同参画センターらぶらす(北沢タウンホール 11階研修室 3,4/下北沢駅南口歩5分)/無料・直接会場へ / 問:世田谷の図書館を考える会・三木(03-5438-5763)

2015年度第5回 (通算99回)
文学館(主催)で楽しむ おとなのためのおはなし会
8月16日(木)10:30～11:30
町田市民文学館 2F大会議室
プログラム

- ・ 町田ゆかりの作家:「国松俊英」 増山正子
 - ・ 紅玉 (後藤竜二作) 大澤里子
 - ・ ドシユマンとドゥースト(イランの昔話)佐藤香織
 - ・ むらさき花だいこん (大門高子作) 伊藤倭子
- 直接会場へどうぞ! 保育有
問合せ:町田市民文学館 ☎042-739-3420

ん。【手嶋(手記): 代表として招かれ本大会に出席。嘱託労の大会は、代議員制度ではなく、組合員がほぼ全員参加し、自分たちのことは自分たち自身で決めるという直接民主主義の体現である。どのような課題であれ、嘱託労全体で徹底的に議論し、結論を出すという手法が定着している。この手法が採られている限り、嘱託労はこれからも幾多の困難を乗り越えていくことは間違いないだろう。】

● 第5回図書館子どもまつり (清水)・・・実行委員会を組織する前の説明会が6/23(火)新団体も加わり15団体ほど参加して開かれた。第4回実施状況を映像写真で紹介後、今後の祭りに対する期待や具体案などが話し合われた。

実施日<2016/3/23(水)～27(日)> 担当者を推薦...これまで推し進めてきた責任もあり増山が引き受ける。会企画として、前回同様、広瀬恒子さんを講師に「子どもの本・新刊紹介」を出すことに。第1回実行委員会は8/25(火)14時～中央図書館ホール。

● 全国図書館大会分科会について(山口) (6p参照) 『図書館雑誌』7月号に詳細が掲載される。是非実行委員(本日現在:手嶋さん)に名乗りをあげて欲しい。

● 市内の文庫等の連絡地図について(鈴木)・・・子どもと本が出会う場所として、文庫等の連絡先が書かれたマップが、中央図書館に掲示されており、地域館では、ちらしを配布するとのこと。

● 会費未納者について(丸岡)・・・会計の引き継ぎが終わり次第報告する

● 事務局より(増山)・・・今年度会員名簿を配布。個人情報なので、慎重に扱って欲しい。データでの配信はしないので、欠席で入用な方はご連絡を。

● 新会員:岡澤陽子さん(日本女子大学図書館司書2年目)、中嶋真さん(町田市立図書館副館長)

* [No.193(p7 右段 28～29行目)訂正してお詫びします]
金森図書館では買い替え予算を組んでいないので⇒
金森図書館では買い替え予算が15万円と少ないので

● 8月の定例会、会報はお休みです。

<編> 安保関連法案が衆議院を通過。日頃政治に無関心な友人も国会前デモに参加しているという。現政権に何を言ってもごまめの歯ざり、とあきらめムードの私に平和を願う吐息が酷暑の熱気以上に熱く迫る。(M4)